

昭和58年度 シグマ特別専門委員会
(シグマ研究委員会) 議 事 録

日 時 昭和 58 年 6 月 6 日 (月) 11:00 ~ 17:00

場 所 機械振興会館 6 階 65 号会議室

出席者 原田吉之助(主査, 原研)

朝岡 卓見(原研), 浅見 明(高エネ研), 飯島 俊吾(NAIG)

五十嵐信一(原研), 池上 栄胤(阪大), 大竹 巖(富士電機)

大林 治夫(名大), 小幡 行雄(原研), 神田 幸則(九大)

菊池 康之(原研), 木村 逸郎(京大炉), 白方 敬章(動燃)

菅原 彬(MAPI), 梶山 一典(東北大), 瑞慶覧 篤(日立,

小林節雄代理), 関 泰(原研), 関 雄次(FBEC)

田村 務(原研), 中沢 正治(東大炉), 中嶋 龍三(法大)

西村 和明(原研), 久武 和夫(東工大), 松浦祥次郎(原研)

松延 廣幸(住友原工), 村田 徹(NAIG), 山室 信弘(NAIG)

山本 正昭(FBEC)

オブザーバー: 浅見 哲夫(原研), 尾内 能夫(癌研)

鹿園 直基(原研), 中川 正幸(原研)

松本純一郎(原研)

欠席者 安, 梅沢, 田中, 塚田, 更田

配布資料

1. 57 年度運営委員会議題 (第 1 回~第 8 回)
2. シグマ研究委員会の構成
3. シグマ研究委員会名簿
4. 原研核データセンターにおけるデータの利用状況
5. シグマ特別専門 / 研究委員会 58 年度活動方針
6. シグマ研究委員会専門部会 58 年度計画

7. 核データ専門部会 資料
8. 炉定数専門部会 57年度活動報告と58年度計画
9. 核構造崩壊データ専門部会 58年度活動計画
10. 「FNSにおける実験と核データ」
11. INDC資料
12. NEACRP資料
13. NEANDC第23回会議報告
14. Forecast of IAEA/NDS Meetings: 1983, 1984, 1985
15. 中国訪問資料
16. 「荷電粒子核反応データ活動」について
17. 諮問・調整委員会資料
18. 昭和58年度科研費活動資料
19. 積分データによるJENDL-2調整の問題に関する検討の報告

議 事

1. 主査の挨拶
その中で新委員の菅原彬氏(MAPI)およびオブザーバーの尾内能夫氏、鹿園直基氏が紹介された。
2. 事務局報告
 - (1) 運営委員会報告
五十嵐氏から資料1にもとづき、58年度運営委員会(第1回~第8回)の概要について報告があった。
 - (2) 原子力学会関係報告
昨年秋および本年春の原子力学会における特別会合、本年春の原子力総合シンポジウム(核データ関係)について五十嵐氏から報告があった。
 - (3) 核データセンター関係報告
58年度のシグマ研究委員会の構成(資料2)およびシグマ研究委員会の名簿(資料3)等について浅見(哲)氏から説明があった。また、資料4により原研核データセンターが国外から入手した数値データおよ

び国内での利用件数についての報告があった。田村氏から ENSDF の利用について補足説明があった。

3. シグマ委員会 58 年度活動計画

(1) 基本方針

五十嵐氏から資料 5 によりシグマ委員会全般の 58 年度の活動の基本方針とともに、各専門部会の 58 年度計画（資料 6）について説明があり、討議を行った。58 年度活動の新規事項、測定データを促進するための方策、JENDL-3 のタイムスケジュールなどについて質疑応答が行われた。その中で JENDL-3 のタイムスケジュールが 2 年延長されることの説明があった。

(2) 核データ専門部会

菊池氏から資料 7 にもとづき、核データ専門部内の各ワーキンググループ（WG）およびサブ WG の活動の現状、58 年度計画について説明があった。これに対して、実験法評価サブ WG の今後の予定、Bi データの評価の予定、photoreaction の扱いに対する委員会の考え等について質疑応答が行われた。

(3) 炉定数専門部会

関（雄）氏から資料 8 を用いて JENDL 積分評価 WG および核融合炉・遮蔽定数 WG の最近の成果および今後の予定について説明があった。続いて飯島氏から資料 19 の主旨について説明があった。これらの説明に対して討議が行われ、燃焼特性の感度解析と核種生成量評価 WG の作業との関連、DDX の作業と核融合核データ WG の作業との関連について質疑応答があった。また、五十嵐氏から資料 19 の積分データによる JENDL-2 の調整の問題は核データ評価の他 WG とも関連するので運営委員会で検討したいとの発言があった。

(4) 核構造・崩壊データ専門部会

中嶋氏から当専門部会内の各 WG について、資料 9 により、57 年度の活動状況と 58 年度計画について説明があった。これに対して、医学用データの文献リスト作成を IAEA に頼めるかどうか、崩壊熱評価の結果

を崩壊熱の実験へフィードバックできるか、核種生成量評価 WG と核データの関連等について質疑応答があり、また、核融合炉の崩壊熱も対象にして欲しいとの要請があった。

(5) その他

梶山氏から、原子力学会の秋の分科会での特別会合のテーマについて発議があり、討論を行った。神田氏からは原子力総合シンポジウムについて検討しているテーマの説明があった。討論の中で特別会合のテーマとして、遮蔽国際会議、遮蔽研究の現状と核データ、FCA アクチナイド燃焼度解析（この可能性については朝岡氏が調べる。）、特殊目的核データ、中国訪問の話などが挙げられ、6月17日の運営委でさらに検討することにした。原子力総合シンポジウムのテーマ（例えば原子力におけるデータベース）について意見があったら神田氏または原田氏に連絡することにした。

4. 諮問・調整委員会中間報告

梶山氏から資料 17 を用いて運営委員会からの諮問事項および昨年 8 月 30 日、本年 5 月 27 日の諮問・調整委員会の討議の概要について報告が行われた。その中でアジア地域センターへのシナリオ作成などについて説明があったが、未だ勧告が出せる程には議論が煮詰まっていないとのことであった。これに対して、NEANDC への中国のオブザーバー参加の可能性、中国に核データ研究会の案内状を出す件、核データ国際会議などに関して質疑応答、議論が行われた。

5. 大学関係核データ活動

(1) 核データ小委員会

池上氏から資料 16 に沿って荷電粒子核反応データ活動とくに CPNRD（荷電粒子核反応データ・ファイル）の現状について説明があった。これに関連して原田氏から、IAEA の岡本氏が荷電粒子核反応データの収集作業を理研に打診したことが紹介された。

(2) 中性子核データ

梶山氏から、資料 18 により大学関係で行われている 58 年度の科研費

による活動の概要について説明が行われた。

(3) 中国訪問報告

木村氏から、資料 15 を用いて、最近、中国を訪問し、原子力研究所、西南原子炉工学研究設計院、原子核研究所などで行った討論や施設の見学等について説明があった。これに対して CENDL の現状などについて質問があった。

6. FNS における実験と核データ

中川正幸氏（原研）から資料 10 を用いて標記の講演が行われた（詳細は省略）。

講演後、これに関連して nuclear heating の測定方法、積分実験の精度、核データについての要求精度、Pb データ、 ${}^7\text{Li}(n, n'\alpha)$ データ等について議論が行われた。

7. 国際委員会関係報告

(1) INDC

原田氏から資料 11 により先の 5 月 16 - 20 日にブラジルで行われた第 13 回 INDC の会合について報告が行われた。その中で、IAEA の NDS は発展途上国への技術援助に活動の重点を置いていること、研究協定による活動およびその調整会議の概要、INTOR プロジェクト用の核データ・ファイル、各国の核データセンターの現状、subcommittee での審議の概要等について説明があった。

(2) NEACRP

白方氏から資料 12 により昨年 9 月に行われた NEACRP 関係の会合の概要について報告が行われた。また、朝岡氏から High Priority Nuclear Data Measurement Requirements for the Reactor Programme についての議論の概要の報告があった。

(3) NEANDC

五十嵐氏から資料 13 により昨年秋に行われた第 23 回 NEANDC の概要について報告が行われた。この報告に関連して ${}^{23}\text{Na}$ の 28 keV 共鳴の discrepancy について質問があった。次回の NEANDC は原研で開く

ことになった。この時行われるトピカル・ディスカッションの予定テーマは「Measurements and Evaluations of Nuclear Data and Decay Heat for Fission Products」であるとの報告があった。

8. その他

飯島氏から sensitivity analysis に関する資料の紹介があった。